

草津市立矢倉小学校通信 令和2年12月21日 NO.17



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

修学旅行 みやげ話

広島市の平和公園は、朝早くから市民ボランティアの方々の手で、そこかしこに降り落ちた紅葉が掃き清められている。木間から聞こえる野鳥のさえずり、市民ボランティアさんの姿、竹ぼうきの音、木立の向こうから聞こえてくる車の往来や路面電車の気配、朝の公園には独特の静けさがある。

朝一番からの資料館見学を終え、ボランティアガイドさんたちと出会うことになった。資料館の展示から受けた印象が大きかったのだろうか、館外に出てきても、いつもなら、わいわいにぎやかになっているはずの子どもたちは、公園全体から受ける声なき声に聴き耳を立てているようにも見える。原爆投下によって犠牲となられた方々への慰霊と平和への誓い、そして祈りに包まれている公園そのものを体感していこうとする姿勢に、ものの見事に変容していたのである。

グループごとにガイドさんとあいさつしたあと、案内されながら公園内をめぐる。「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」と刻まれた原爆死没者慰霊碑、引き取り手のなくなってしまった多くの犠牲者が埋葬されている塚などにさしかかると、自然と手を合わせる姿が見られた。

公園をめぐる活動を終え、グループごとにお別れのあいさつをしたあと、何人ものガイドさんが私にあいさつをしに来てくださった。そうして、こんな言葉を頂いた。「校長先生、よい子たちですね。こちらの話を真剣に、ほんとうによく聞いてくれました。しかも、たくさん質問してくれるんです。」「校長先生、よく質問できるということは、これまでよく学習してきたということ…、そういうことだと思います。すばらしいです。」と。

その後、平和セレモニーを子どもたちの手で行い、いくつもの折り鶴がささげられたコーナーを通り抜けることで、自分たちがつくった折り鶴も供えられていることを確かめた。自分たちが、平和を願い、行動していく仲間となったことを確かめ、これまでの学習が一つのかたちとなった瞬間だ。

10月初め、運動会終了後に開いた6年生の修学旅行についての保護者説明会。そこで語った、修学旅行にかける願い…、矢倉小がこれまでずっと続けてきた平和学習を途切れさせたくないということ、楽しい思い出をつくること。

帰宅後、子どもたちは家族にどのような「みやげ話」ができたのだろうか。

修学旅行で学んだことは、これから先の日々の暮らしの中で、一人ひとりがくりかえし思い起こすことで心に刻み込み、生き方にしていくことになる。私たち大人にとっては、こうした営みをいかに支えていくかが課題となる。子どもたちをこれからも見守り支え続けたい。

コロナ禍の中、修学旅行実施についてはさまざまなご配慮、ご心配をいただきました。なんとか無事に終えることができました。紙面をお借りし、お礼申し上げます。 校長 大林道範